

## オオイチモンジシマゲンゴロウの越冬場所について

松本英明・磯崎年光

### Hideaki MATSUMOTO & Toshimitsu ISOZAKI: A Hibernating Site of *Hydaticus pacificus* AUBÉ (Coleoptera, Dytiscidae)

オオイチモンジシマゲンゴロウ *Hydaticus pacificus* AUBÉ は、日本から東南アジア、インドなどにかけて分布する、多くは止水性の水生甲虫で、日本では本州、琉球に分布し、本州産は別亜種 *conspersus* RÉGINBART として区別されている。

一時期、本州では絶滅が危惧されていたが、最近、埼玉県北本市（阿部・笹井，1986）、茨城県笠間市（桜井 浩・疋田直之，1987）など、関東各地から採集例や記録が知られるようになった。しかし、採集場所の環境や採集時の状況についての報告がほとんどなく、本州における本種の詳しい生息場所はよくわかっていなかった。ところが最近になって、茨城県桂村における本種の越冬例が報告され、その姿が美しいカラー写真となって公表された（今井，1988）。

筆者らも、埼玉県において、成虫の越冬地と思われる場所から1例を確認することができたので、本種の生息場所のひとつとして報告しておく。

1♀，埼玉県比企郡鳩山町（標高 60-70 m），5-IV-1988，磯崎年光・赤塚 博採集。

当地は、埼玉県のはほぼ中央に位置する岩殿丘陵の一角で、おおむねアカマツ、コナラの混交林でおおわれ、丘陵にはいくつもの狭い谷地が貫入している。確認場所は、この丘陵谷底部の最奥部（谷頭）で、落葉におおわれた水深 0-数 cm の泥湿地である。本個体は、トウキョウサンショウウオの観察中に、多くの卵囊に混じって見いだされたものであるが、偶然得られた個体なので、落葉下に潜んでいたのか、泥中なのかなどの詳細は不明である。また、ゲンゴロウ類と両生類の卵囊とになんらかの関係があるのかどうかもよくわからないが、筆者らの北海道での観察では、メススジゲンゴロウをエゾアカガエルの卵囊の間隙から（5月）、ゲンゴロウモドキをエゾサンショウウオの卵囊とともに（4-6月）見いだしたことがある。

この泥湿地は水塊をとまわず、摂食活動などの点から通年の生息場所となりうるのかどうかは不明であるが、おそらく活動盛期に向かって、増水による流出や飛翔移動により分散するものと推察される。谷地の下部は、水田放棄地、ヨシ草地、用水池、水田となっているので、これらの水域のいくつかを利用するものと思われる。

埼玉県にかぎらず関東地方の丘陵地帯には、同様の谷地（谷津田）が多く存在し、詳細に調査を進めることにより、今後、確認地は増えるものと推測される。

末文ながら、諸々の面でお世話になった赤塚 博、稲川 良両氏に深くお礼を申し上げる。

#### 参 考 文 献

- 阿部光典・笹井厚子，1986. 北本市石戸宿の甲虫類。寄せ蛾記，(48): 691-713。  
今井初太郎，1988. 表紙さつえいメモ。インセクタリウム，25: 30。  
桜井 浩・疋田直之，1987. オオイチモンジシマゲンゴロウ茨城県に産す。月刊むし，(202): 34。